

## 「肝臓の外科」

Liver Surgery  
with operative color illustrations

Roy Y. Calne 編

東北大学教授

葛 西 森 夫 監訳

京都大学教授

戸 部 隆 吉

英国 Cambridge 大学の Calne RY は、周知のように、現在欧米を代表する著名な肝臓外科学者であり、Liver Transplantation (Lavenham Press Limited, Suffolk, England, 1983) と Liver Surgery は代表的な名著である。

Liver Surgery は、1982 年、イタリア Piccin Medical Books から出版された名著で、今回、東北大学葛西森夫名誉教授らによって訳され、医学書院から発刊された。

一見して分かることは、わが国の印刷技術の水準の高さのゆえか、表

題に示すように、原著と同様に美しく、分かりやすく印刷されていることである。目で見ると手術図譜にとつては、極めて印象的であり、理解の助けともなる。

本書は、Calne が編集した 16 項目から成る分担執筆であり、内容は 1. 肝外傷 2. 肝右半切除 3. 肝中葉切除 4. 左外側区域切除 5. 肝実質内脈管結紮法による肝左葉切除 6. 肝包虫症の外科 7. 先天性胆道閉塞症に対する二重 Y 型肝門部空腸吻合術 8. 肝外胆管良性狭窄の外科 9. 肝内結石の外科 10. 主(左

右) 肝管合流部癌の治療 11. 原発性および続発性肝腫瘍の姑息的治療 12. 肝移植の適応と移植成績 13. 肝保存法 14. 同所肝移植の手技 15. 術後の黄疸・肝不全 16. 原発性肝腫瘍および類似疾患の各項目を、葛西森夫教授、Ong 教授(香港)、林天佐教授(台湾)、Tung 教授(ベトナム)らがそれぞれ執筆されたものである。特に、本書で優れた記載をしているベトナムの Ton That Tung がわが国で紹介されるのは初めてであろう。大井龍司教授、西平哲郎講師、佐々木崇講師らの翻訳も誠実であり、極めて理解しやすい。

本全体としては、術式で記載されたり、疾患あるいは症状で記載されたりして統一に欠ける難はないでもないが、執筆者はいずれも一流の外科学者で、豊富な経験を基にして、図で分かりやすく述べているので、肝臓外科に興味を抱く外科医にとっては、示唆に富む名著であり一読を薦めたい。

A 4 変型判, 298 頁, 17,000 円,  
送料 400 円, 1986 年

医学書院 刊